

あったかい。 ムダがない。 揺るがない。

夢は、自給自足。

「学生時代、バックパックを背負って世界を旅し、物があふれる日本とは違うシンプルライフに各地で触れて、自然な暮らし方に憧れるようになったんです」。そう言って『自給自足の本』を差し出した信哉さんと、「当時のバイブルだったのよね」と笑う陽子さん。旅先で出逢い、帰国後結婚したお二人の心には、教員や保育士として街で働きつつも、いつも田舎暮らしへの夢があつたそうです。

毎年開催され話題になっていた「エコロジー住宅学校」への参加を機に、その主催者の西條さんと知り合い、「家を建てるならこの会社」と決めたというご夫妻が、あちこち探した末に選んだ土地は、積丹岳を見晴らす、人里離れた丘の上。ヨモギやアカシアの野と化していた土地を開墾し、下界から丘の上に至る道造りや水道や電気などのインフラ工事をするところから住まい作りを開始。パクテリアやミネラルを使った汚水浄化設備、薪炊き風呂、雪室にもなる作物貯蔵庫、農産物加工室…と、自給自足と自然循環を目指した要素いっぱいの家が形になってゆきました。

「頼れる家」があればこそ。

「自然の中の暮らしはやることだらけ。体力的にも精神的にも、実際は大変です。

でも、だからこそ、外作業から家に帰ってくると、いつもホッとするの。木や土の温もりを守られてるっていうかね、心身ともに安らぐんです。造りも断熱もしっかりしてるから、猛吹雪の日も家に入れば薪ストーブで充分暖かです。逆に夏は猛暑でも家の中は涼しかったし。田舎暮らしでは特に、頼れる家が必要なんです。田舎という環境だけでなく、この家からも自然の恵みを感じ、毎日活力をもらってるんですよ。」

この記事の続きは、HPでお楽しみください。
<http://www.saijo-d.com>

「農的暮らし」のエコ効果。

輸入端材を接着した合板ではなく、道産無垢材を多く使った阿部さん宅が、この地の気候に適しているのは当然のこと。地元野菜が地元人の体

に適しているのと同じ道理です。珪藻土や古紙の断熱材も、「あるものを活用する」という農的感覚に基づいたもの。野菜作りには家作りのヒントも、たくさん含まれているのです。

エコデザイナー 西條 正幸



右側に広がる大きな窓から積丹岳が一望できる贅沢なリビング。



アイランド型の使いやすいキッチン、陽子さんのお見立て。



冬の間に閉ざされる1Fは作物の貯蔵がメインで、冬も暖かな2Fとロフトが生活空間。見晴らしも最高!



玄関は2方向から差し込む光で、凍てつく冬も明るく暖か。

室内の暖気をムダなく回らす自然換気システムで、ロフトも暖か。

量もオーガニック。藍染の繊維を使った壁が個性的。

BiO+
BioPlus西條デザイン

©企画・設計 有限会社 BioPlus西條デザイン
本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581

阿部信哉さん

長年の教員生活から、無農薬無化学肥料栽培の農家に転身して3年。毎日重労働なれど、メタボとも風邪とも無縁の、輝く笑顔。

阿部陽子さん

旅からだけでなく、子育てや障害を持つ子ども達と関わる仕事からも、生き方を学んだという奥様は、信哉さんの夢の理解者。

